

15. 和束町の建造物調査

岸 泰子

1. 概要

和束町が刊行する町史では、建造物を取りあげる予定である。その執筆を担当する歴史学科文化遺産コース建築史研究室では、2021年度は町内にある歴史的建造物の悉皆（一次）調査を実施した。悉皆調査とは、地区を踏査し、地区にある寺社、民家、公共建築などをすべて目視で確認し、地区内にどのくらいまたどのような歴史的建造物が残っているのかを判断する調査である。

2. 内容

2021年度は、以下の日程・参加者で調査を実施した。

日程 2021年4月16日（金）、6月25日（金）、7月9日（金）・16日（金）
10月15日（金）、12月17日（金）

参加者 岸、安部萌花（歴史学科4回生）、宮田匡（同4回生）
川西優帆（3回生）、松岡茉陽琉（同3回生）

対象とした地区は、原山・杣田・南・中などである。

また、12月9日（木）には、鷲峰山金胎寺の一次調査を実施した。金胎寺は、天武天皇白鳳4年（675）に開かれた寺院で、行場があることでも知られる。境内にある多宝塔は、永仁6年（1298）の建立である。また、多宝塔の横には江戸時代に建てられた本堂や行者堂がある。

町史編纂に関わる一次調査は今年度でほぼ終了する予定である。2022年度からは、この一次調査のなかから町史でとりあげる寺院・民家の建物を抽出し、対象となった建物の詳細（二次）調査を本格的に開始する予定である。

なお、建造物の一次調査の途中成果報告として、2021年12月19日（日）に和束町体験交流センターにおいて、岸が「和束町の歴史的建造物」と題して講演を行った。



写真1 調査風景